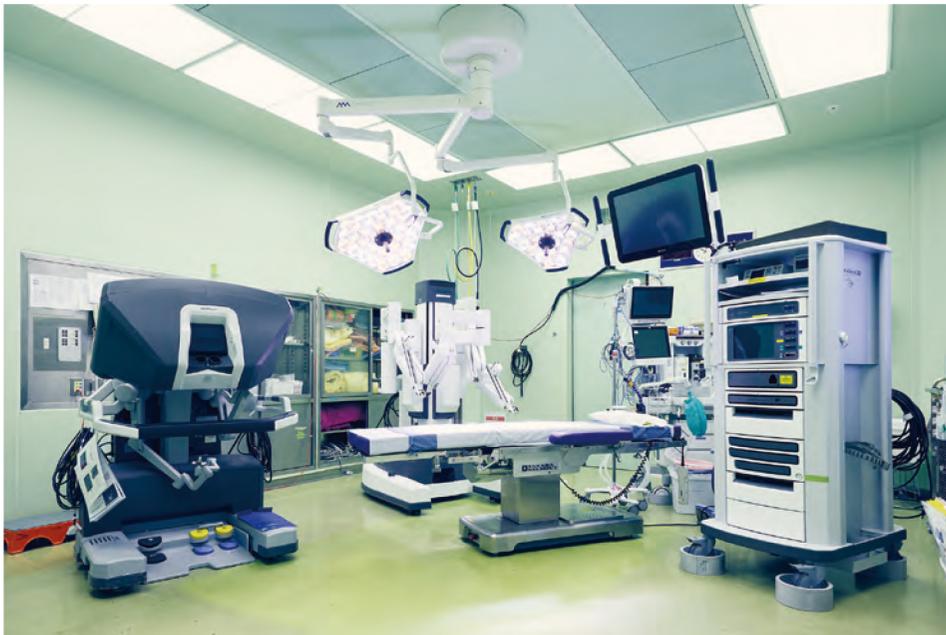


連携医療機関向け広報誌

COMPASS

N A G O Y A E K I S A I K A I H O S P I T A L

vol. **11**
2026 February



Division of Surgery



確かな技術と温かなまなざしで、命に寄り添う外科医療

名古屋掖済会病院外科では、地域の先生方に気軽にご相談いただける“頼れる外科”を目指して日々診療にあたっています。幅広い一般外科診療に対応しつつ、患者さんの負担をできるだけ減らせるよう、低侵襲手術を積極的に取り入れている点が私たちの特徴です。今年からは胸腔鏡下食道切除術を開始し、より高度な食道疾患にも対応できる体制が整いました。また、ロボット支援手術にも力を入れており、適応拡大や術後回復の向上を目指してチーム全体で取り組んでいます。紹介いただいた患者さんには迅速かつ丁寧に対応し、治療内容や経過もしっかり共有いたします。今後も地域医療を支える外科として、安心して任せいただける診療を提供してまいります。

Division of Surgery

外科 肛門外科 呼吸器外科 乳腺外科



「Da Vinci」



名古屋掖済会病院では、2019年に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入して以来、500例を超えるロボット手術を行ってきました。腹腔鏡手術で培ってきた経験を基盤に、より安全で安定した低侵襲手術を提供することを目指し、症例を重ねながら手術の質を高めてきました。現在は胃がん、直腸がん、結腸がん、ヘルニアに対してロボット手術を施行しております。

ロボット手術の大きな特徴は、特定の手法が一部の術者に依存せず、どの術者でも一定の精度で再現できる点にあります。

腸間膜の処理や深部での縫合といった、腹腔鏡では個人差が出やすい工程が安定し、結果として合併症率の低下につながっています。

また、創部が小さいこと以上に、腸管の扱いを繊細に行えることで術後の腸管麻痺が少なく、排ガスや食事再開が早い傾向がみられます。

高齢者や併存疾患を抱える患者さんでも回復の遅れが少なく、治療選択

患者さんに優しい低侵襲治療を

ロボットで確実に

肢としての有用性が増しています。さらに当院では、2025年12月現在では自費診療となっておりますが、「ロボットヘルニア手術」も積極的に実施しており、現時点で日本最多の症例数を経験しています。従来手術と比べて創部痛が軽く、日常生活への復帰が早い点が評価されており、患者さんからの満足度も高い領域です。また、2026年度の診療報酬改定により保険適用が決定しており、今後はより多くの患者さんに提供できる治療として位置づけられています。

ご紹介いただく患者さんには、術式の違いや適応の可否について丁寧な説明し、安心して治療を選んでいただけるようサポートいたします。

「ロボット手術が合うかどうか相談したい」という段階でも構いませんので、候補となる症例がございましたら、どうぞお気軽に当院までご紹介ください。

患者さんにとって最適な治療選択肢の一つとして、地域の先生方と連携しながら質の高い医療を提供してまいります。

ロボット支援手術対応疾患の実績

(2019~2025年)

「上部消化管手術」

162例

「胃切除術」 「胃全摘術」

126例 36例

(幽門側胃切除122例、噴門側胃切除4例)

「下部消化管手術」

233例

「直腸切除術」 「直腸低位切除術」

10例 129例

「結腸切除術」 「直腸切断術」

75例 19例

「鼠径ヘルニア手術」

233例



Laparoscopic Surgery

「腹腔鏡手術」

当科では、患者さんの身体的負担を最小限に抑えつつ、安全で質の高い治療を提供することを目的に、腹腔鏡手術を積極的に導入しております。胆嚢炎や虫垂炎、鼠径ヘルニアといった良性疾患に対する手術に加え、胃・大腸の悪性疾患に対しても幅広く対応でき、可能な限り小さな切開で確実な根治性を追求しております。また、直腸脱に対しては、名古屋市内で唯一、腹腔鏡下直腸脱手術を施行している施設として、専門性の高い治療を提供しております。

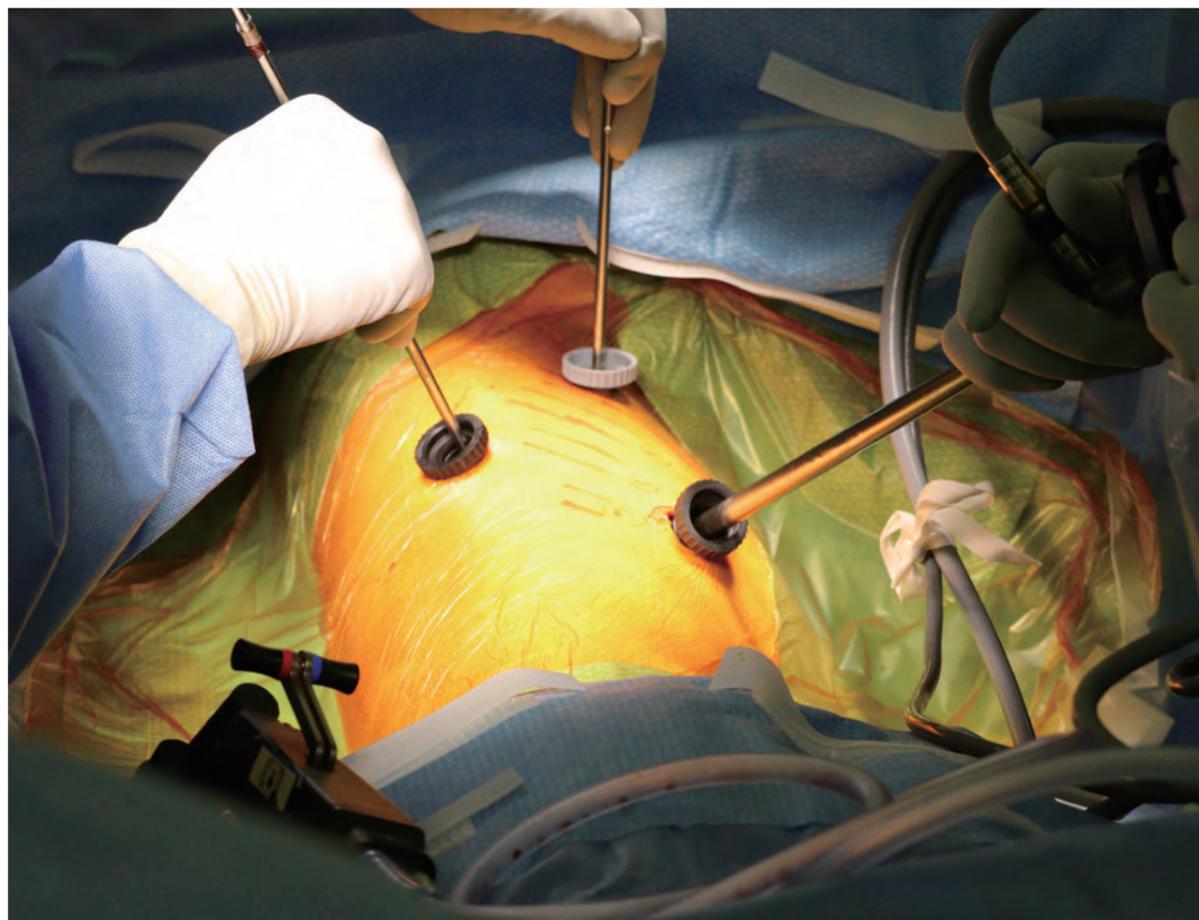
ロボット支援手術と異なり、あらゆる消化器疾患に対して腹腔鏡手術が可能であり、また手術日までの待機時間がロボットより短く手術を組み合わせることができるため、進行した悪性腫瘍に対しても、巨大腫瘍や困難な他臓器浸潤を有するもの以外は腹腔鏡手術で行う事をまずは検討しています。術中では高精細4Kカメラや3Dモニターなどを用い、視野の確保と安全性の向上を図り、ロボット手術と遜色ない手技を提供しています。当科には内視鏡外科技術認定を有する医師が複数いるため、より高難度と言われる肝臓腫瘍に対する腹腔鏡手術も積極的にこなしております。すべての予定手術症例では腫瘍部位やその大きさ、進展具合などから術式選択や周術期管理まで科内で綿密に検討を重ねた上で治療方針を決定いたします。

周術期管理においてはクリニカルパスを適用し術後7日目の早期退院を基本としています。また入院中に栄養指導・生活指導をしっかりと行い、退院後も安心して自宅で過ごすことができるよう他職種で患者さんのサポートをしています。ため、大変満足いただいております。

紹介していただきました患者さんについては、可能な限り迅速に対応いたします。術後経過や病理結果についてもご紹介頂いた先生方へ速やかにご報告するとともに、がん地域連携パスを用いた先生方との共同診療を推し進め、治療後のフォローアップ計画についても連携してまいります。

多様な疾患に対応する、

信頼の腹腔鏡治療



Video-Assisted Thoracoscopic Surgery

「胸腔鏡手術」

高難度手術にも挑む、
低侵襲外科の最前線

当院では、食道がん、食道胃接合部がん、一部の肺がん、さらに肺の良性疾患に対して胸腔鏡を中心とした低侵襲手術を積極的に導入しています。術後の早期回復と高い根治性の両立を目指し、最新の鏡視下手術技術を取り入れた診療体制を整えています。

食道がんに対しては、胸腔鏡と腹腔鏡を組み合わせた低侵襲食道切除を行っています。3.5mm細径鉗子や3mm電気メスを活用し、小さな創からでも繊細で確実な郭清を行うことで、根治性と低侵襲性の向上を図っています。術中は反回神経麻痺予防のため神経モニタリングを導入し、声帯機能の温存に努めています。また、蛍光色素を用いた胸管造影や腸管血流評価により、リンパ漏・縫合不全など術後合併症リスクの低減を図っています。

術後体重減少には、夜間在宅経腸ポンプ栄養(N-HEEN; Night-Home Enteral Nutrition)を導入し、自宅療養中の栄養管理を強化することでQOL維持に努めています。進行した食道がんに対して、低侵襲な胸腔鏡手術に術前・術後化学療法、免疫栄養、積極的な栄養管理を組み合わせた集学的治療により、治癒を目指すとともに術後QOLの向上にも注力しています。

食道へ進展する難度の高い食道胃接合部がんに対しても、胸腔鏡+腹腔鏡による低侵襲アプローチを採用しています。胸腔鏡腹腔鏡下部食道噴門側胃切除と有茎空腸によるダブルトラクト再建により、根治性と安全性、術後の機能温存を重視した高度な治療を提供しています。症例がございましたらお気軽にご紹介ください。

肺がんでは、早期の非小細胞肺がんに対し、ガイドラインに準拠した区域切除を積極的に実施しています。特に末梢の小型肺がんでは、胸腔鏡併用により術後疼痛の軽減と早期回復を可能にしています。さらに、気胸・膿胸などの良性疾患に対しても胸腔鏡手術を第一選択とし、患者さんの身体的負担軽減に努めています。



Breast Surgery

「乳腺外科」

**標準治療を基本に、
一人ひとりにあつた
乳がん治療をご提案**

当科は乳がん診療を専門とし、診断から治療までトータルで乳がんを診ております。診断については、日本乳がん検診精度管理中央機構の指針に従ってマンモグラフィやエコーの所見を評価し、必要な病変に対して細胞診や組織診を行って、乳がんを極力見逃さないよう心がけております。治療については、日本乳癌学会の診療ガイドラインに則って、まずは現時点で最適とされている「標準治療」を提案し、状況が許さない方には、それに代わる治療を患者さんと相談しながら方針を決定していきます。また、難治性の進行乳癌に対しては、薬物治療などを行っていきながら、できるだけ普段に近い生活を永く維持する方法を模索したいと思っております。「治る方には、治る医療」を提供したいと考えております。また、遺伝性の乳がんの検査、カウンセリング、治療および予防的卵巣摘出術を当院にて行う体制も整えております。

外来を受診された方には、原則その日のうちに視触診・マンモグラフィ・エコー検査を行い、検査結果を説明していただきます。そして、必要な方には細胞診や組織診を行うことで、初診から1〜2週間程でがんの診断を行い、1ヶ月程度で手術などの治療へ入っていきます。一方、早期の乳がんを疑うような病変については、MRIやCTを先に撮影したりすることで、診断までに時間を要することがあります。乳腺には、将来乳がんになりうるような、いわゆるグレーゾーンの病変ができることもあり、そういった方は定期的な経過観察が必要となる場合があります。乳腺外科は外科の一分野であり、外科の医師たちと協同して診療を行っております。外来については基本予約制となりますので、専門医の診察および治療を希望される場合は必ず予約を取って受診してください。予約外で来院された場合は、初診医が、診察・問診・検査等を行い、そのあと後日、必要な検査の説明・予約をさせていただきます。



Inguinal Hernia

「鼠径部ヘルニア」

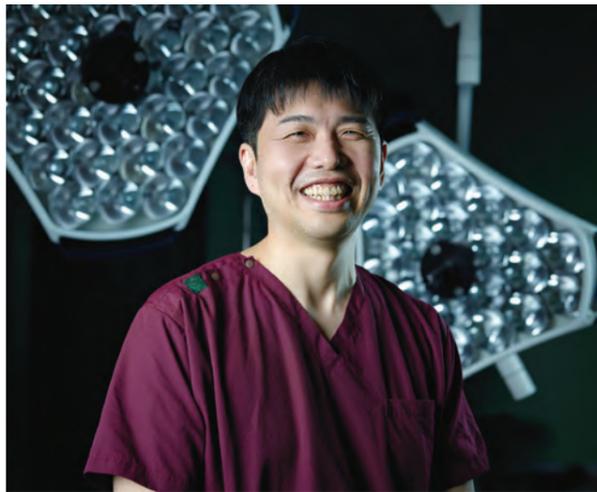
**2025年12月までに
233例を施行。
症例を重ねてきたからこそできる、
患者さんに寄り添う術式提案**

本邦では保険収載に先駆けて、全国の鼠径部ヘルニア治療の先進病院を選定し、ロボット支援鼠径部ヘルニア修復術の短期成績を明らかにする臨床研究が2022年3月から2023年4月にかけて実施されました。名譽なことにその全国17病院に当院が選ばれ、鼠径部ヘルニア治療で日本を代表する聖路加国際病院から松原猛人先生を招聘してロボット支援鼠径ヘルニア修復術の初症例を施行しました。2025年12月までに233例施行し、本邦最多の施行数となりました。その症例数の多さから複数企業との鼠径部ヘルニア手術教育施設に認定され、県内だけではなく、北は神奈川県から南は福岡県まで他病院の多くの外科医の先生方の手術見学を受け入れる一方で、手術指導にも招聘される程までになっております。

高齢化社会を迎えて鼠径部ヘルニア患者数は年々増加しております。鼠径部ヘルニア治療の需要も増す一方で、当院外科では全身麻酔ではリスクがある高齢患者さんに対する局所・腰椎麻酔を用いた鼠径部切開法、全身麻酔下での腹腔鏡手術(TAPP/TEP)やロボット支援手術、小児(2歳以上)に対してはより小さいキズで施行する腹腔鏡下ヘルニア門縫合閉鎖術(LPEC法)という、全国では唯一の「五刀流」の治療法を持ち合わせており、患者さんの鼠径部ヘルニアの種類・状態に合わせた最適な術式を提供可能です。また手術創部が離開して脱腸状態になった腹壁瘻痕ヘルニアや臍ヘルニアなどの腹壁ヘルニアに対しても積極的に治療しております。腹部ヘルニアが嵌頓した場合には、いつでも緊急手術による対応も可能です。腹部ヘルニア全般で困っている患者さんがみえましたら何卒ご紹介いただきますようよろしくお願いいたします。

THE SURGICAL MINDS

— Driven by innovation, defined by skill.



部長

水谷 文俊

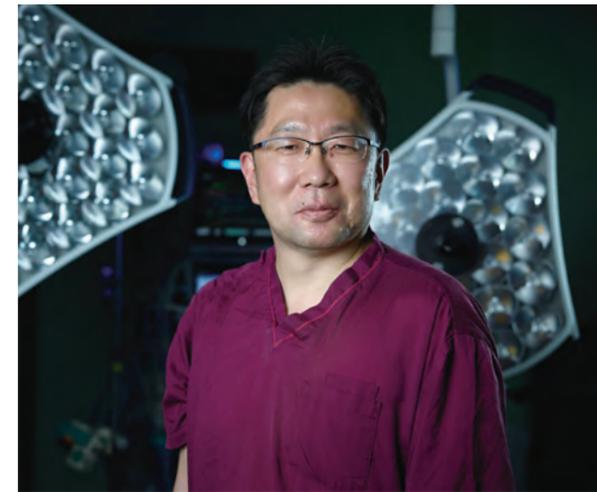
FUMITOSHI MIZUTANI

ヘルニアから肛門、外傷まで、
救急も支える確かな手

鼠径ヘルニア診療の豊富な実績に加えて、肛門外科手術、胸腹部重症外傷手術を得意とする外科医。愛知県重症外傷センターの認定を受けた当院救命救急センターにおいて、胸腹部外傷の中心的役割を担う。ロボット支援消化器手術に加えて、地域の救急医療を力強く支えている。

出身校：高田高校、岐阜大学(2005年卒)

経歴：三重県出身 大垣市民病院、名古屋大学附属病院、
国家公務員共済組合東海病院で勤務



副院長

加藤 祐一郎

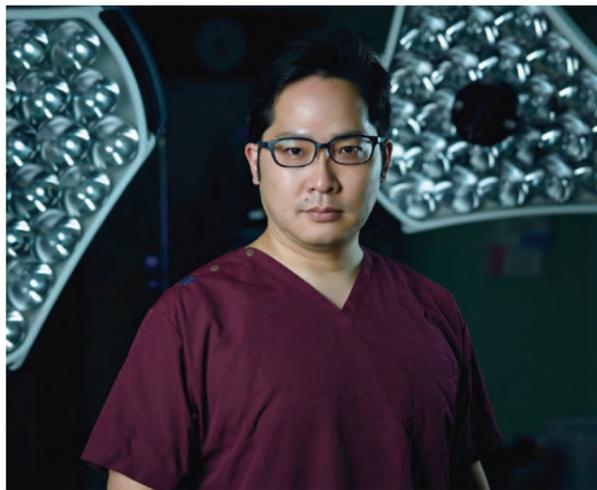
YUICHIRO KATO

高難度手術とチーム医療を率いる
外科の舵取り役

肝・胆・膵領域を中心に高難度手術の豊富な経験を持ち、ロボット手術の指導資格「日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター認定(胃・直腸・結腸)」を有する。安全で質の高い外科医療体制を牽引し、診療・教育の両面から外科全体を統率するリーダー。

出身校：千種高校、名古屋大学(1997年卒)

経歴：厚生連加茂病院、国立がん研究センター東病院
名古屋大学病院



部長

川上 次郎

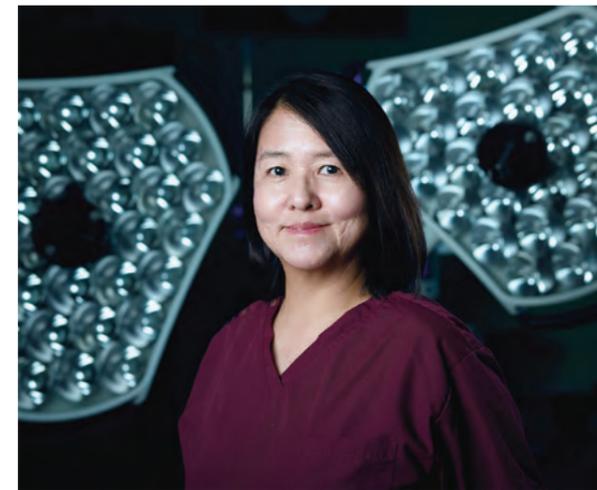
JIRO KAWAKAMI

術後の生活まで見据える、
次世代をつなぐ外科医

食道がん手術後の栄養管理・ケアにも精通し、術後の生活を見据えた診療を行う外科医。研修医や若手医師との距離が近く、外科の魅力伝える存在として活躍。院内外を問わず積極的に連携を広げ、外科全体の活性化に貢献している。

出身校：東海高校、名古屋大学(2006年卒)

経歴：大垣市民病院、名古屋第一赤十字病院、愛知県がんセンター



部長

木村 桂子

KEIKO KIMURA

一人ひとりに向き合う、乳腺・遺伝診療の要

乳腺外科診療に長年携わり、豊富な経験と丁寧な説明に定評のある外科医。名古屋南部では希少な遺伝に関する専門資格を有し、遺伝カウンセラーと連携した診療体制の中心も担っている。患者さん一人ひとりに寄り添った、納得感のある治療提案を行っている。

出身校：菊里高校、富山大学(1988年卒)

経歴：旧名古屋大学第一外科及びその関連病院、
癌研究会附属病院等で研鑽を積んでまいりました

外科へのご紹介の臨床指標

Clinical Indicators for Referral

当院外科(肛門・呼吸器・乳腺)は、各分野の専門医が連携し、幅広い疾患に対して安全かつ確かな手術治療を提供しています。地域の先生方におかれましては、下記のような症状・所見を認めた場合、外科での精査・加療をご相談いただけますと幸いです。

外科

- 消化器領域の癌
- 肝胆膵領域の癌
- 急性腹症(虫垂炎、胆嚢炎など)
- 良性腹部疾患
(胆石症、腹部ヘルニアなど)

呼吸器外科

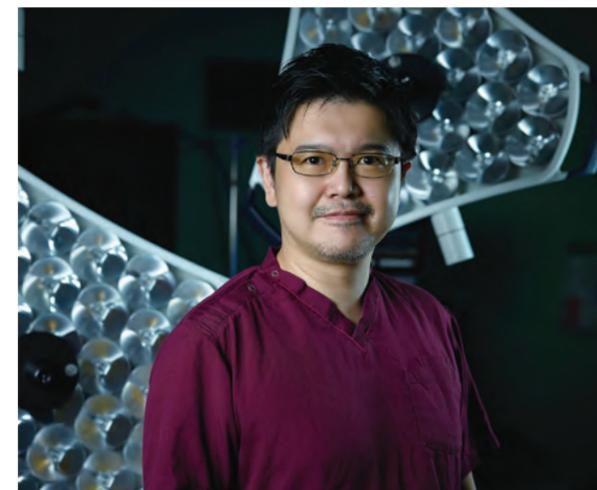
- 肺癌や肺良性腫瘍や気胸

肛門外科

- 内外痔核や裂肛や肛門周囲膿瘍
- 痔瘻や直腸脱

乳腺外科

- 乳癌や良性乳腺腫瘍



部長

山口 直哉

NAOYA YAMAGUCHI

技術と教育で外科を支える、
肝胆膵エキスパート

肝・胆・膵領域を専門とし、ロボット手術の指導資格を有する外科医。安全性と確実性を重視した手術を実践するとともに、開腹手術からロボット手術まで若手外科医の指導にも力を注いでいる。また、がん地域連携パス推進においては当院のリーダーとして、地域との連携強化に取り組んでいる。

出身校：東海高等学校、名古屋大学(2004年卒)

経歴：豊田厚生病院、中京病院、名古屋大学腫瘍外科、
豊橋市民病院

- 名 称 名古屋掖济会病院
- 管理者 院長 北川 喜己
- 病床数 602床

■ 診療科 (全36科)

内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、膠原病リウマチ内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科・手外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、腫瘍内科、健康管理科、産業保健科



〒454-8502 名古屋市中川区松年町4-66

代 表 TEL<052>652-7711 FAX<052>652-7783

地域医療支援センター TEL<052>652-7954 FAX<052>652-4774

<https://www.nagoya-ekisaikaihosp.jp>



WEB